

米国産バイオメタンの調達契約の締結について

2025 年 11 月 28 日
大阪ガス株式会社

大阪ガス株式会社（社長：藤原 正隆、以下「大阪ガス」）の 100%子会社である Osaka Gas USA Corporation（社長：生田 哲士、以下「OGUSA」）の子会社^{*1}は、このたび、bp グループの Archaea Energy が米国で生産するバイオメタンの調達契約を締結いたしました。

本契約の締結により、当社は Archaea Energy が米国内に保有するゴミ埋立地由来バイオメタン製造施設から、バイオメタン（約 2.6 万 Nm³（約 20 トン））を購入します。購入したバイオメタンはフリーポート LNG 基地にて液化の上、出荷し、当社が関西に保有する LNG 基地での受け入れを予定しています。なお、当該米国バイオメタン製造事業から生み出される環境価値^{*2}を付与した都市ガスは、関西のお客さま施設において利用される予定です。

本取り組みを通じて、e-メタン・バイオメタンの日本導入に資する国内外のサプライチェーン構築を目指します。

バイオメタンは、バイオガス^{*3}の精製（CO₂除去等）により天然ガスと同程度までメタン濃度を高めたガスを指し、燃焼時に新たな二酸化炭素を放出しないとみなされるため、都市ガス燃料の脱炭素化に繋がる手段として注目されています。

米国は、豊富な原材料や、環境価値の取引制度等の先進的な政策・制度の存在から、世界有数のバイオメタン生産国であり、将来的には日本の主要な輸入先となることが期待されます。

Daigas グループは、2025 年 2 月に発表した「エネルギートランジション 2050」のもと、脱炭素社会に貢献する技術・サービスの開発に取り組み、気候変動をはじめとする社会課題の解決に努め、暮らしとビジネスの“さらなる進化”のお役に立つ企業グループを目指してまいります。

^{*1}：Osaka Gas Trading and Export LLC（以下「OGTX」、OGUSA の 100%子会社）

^{*2}：現在、海外産 e-メタン・バイオメタンが保有する環境価値は我が国の温室効果ガス排出量 算定・報告・公表制度（SHK 制度）等での活用は認められておらず、国の審議会等で算定ルールの検討が進められている。本取り組みでは北米で運用されている環境価値の証明・追跡を行うシステム「M-RETS（Midwest Renewable Energy Tracking System）」により生成される環境価値を活用する予定

^{*3}：メタン発酵等により家庭ごみ、下水汚泥、家畜糞尿、食品残渣等の有機化合物が分解される際に発生する、メタン、CO₂を主成分とする可燃性ガス

■本事業のイメージ（一例）



ゴミ埋立地由来バイオメタン
製造施設の様子
(Archaea Energy 提供)

以上